板一中　小中一貫学びのエリア（板二小・板六小・板七小・板一中）

板二だより

令和７年度２月号
令和８年１月３０日

学校情報化優良校・ユネスコスクール認定校
板橋教育ビジョン研究奨励校（自己調整学習）
小学校教科担任制等推進モデル校

板二小ホームページ　QR コード

板橋区立板橋第二小学校
校　長　小 澤　　裕 行

節目を大切に

副校長　齊藤　孝之

２月３日は節分です。節分とは季節の分かれ目を言い、節分の次の日は立春です。まだまだ寒い日が続きますが、暦の上ではもう春ということになります。

ところで、日本には季節が春・夏・秋・冬と４つあります。ならば節分もそれぞれの時期に２月３日のような行事が行われても不思議ではないのですが、風習が残っているのは２月だけです。

では、なぜ冬から春の節分だけをとりわけ日本人は大切にしてきたのか？ネットで調べてみると多くのサイトで、「日本では古くから、立春が『一年の始まり』として特に重要視されてきた」と掲載されていますが、私は、「一年の始まり」以上に、日本人の「『春を大切にする』感覚」から来ているのではないかと考えます。

２月３日に「福はうち、鬼は外」と言いながら豆をまきます。これは、京都の鞍馬山の奥に鬼がたくさん住んでいて、たびたび都を荒らしに出てきたとき、都の民が鬼にめがけて一斉に豆を投げつけて鬼の目をつぶし、追い払ったという言い伝えからきているそうです。

また、節分の夜にはヒイラギの小枝にイワシの頭を刺して、門口にはさんでおく風習もあります。「鬼はイワシのにおいとヒイラギの葉のトゲが大嫌いなので追い払うことができるためなのだ」という言い伝えです。昔の人々は、寒くて暗い感じの長い冬や病気や不幸のもとになるものを鬼になぞらえて、冬と春の節分の夜にすっかり追い払って、明るく春を迎えようとしたのではないでしょうか。そして、現代の私たちもこれらの風習を受け継ぐことで、知らず知らずのうちに「『春を大切にする』日本の四季に対する感覚」が育まれているのではないかと思うのです。

さて、春は別れと出会いの時期です。本校でも２月後半から「６年生を送る会」「たてわり班の感謝の会」等、修了式、卒業式に向けて様々な児童主体の行事が行われます。

子供たちは、今までお世話になった６年生に感謝の気持ちを伝えます。そして同時に、一つずつ学年が上がり、自分たちが今度は下の学年のお世話をしたりお手本になって頑張ろうとしたりする気持ちをもたせます。１つ学年があがるこの時期を子供が成長する好機ととらえ、「どんなお兄さん、お姉さんになりたいか」を具体的に考えさせることで、成長を促すのです。

終業式、卒業式まであと２か月です。冬から春へという節目を学校は大切にしていきます。そしてこの節目を通して、子供たちに確かな成長と豊かな感性を育んでいけるよう、教職員が一丸となって頑張ります。今月もどうぞよろしくお願いいたします。